

# 西山城跡

記者発表及び現地説明会資料

西山城

記者発表 2005年3月4日(金) 11時~12時  
現地説明会 2005年3月6日(日) 13時30分~15時

場所 高知県高岡郡中土佐町久礼字城山

2005年3月

西山城跡ホームページ

[http://www1.quolia.com/katsuono\\_castle/](http://www1.quolia.com/katsuono_castle/)

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

## I 西山城跡の位置



図1 西山城跡の位置と周辺の遺跡

## II 調査の概要

1. 遺跡の所在地：高知県高岡郡中土佐町久礼字城山、下越
2. 調査の目的：四国横断自動車道（中土佐～窪川間）建設に伴い影響を受ける埋蔵文化財について、発掘調査を行い記録保存に努める。
3. 調査面積：2,500m<sup>2</sup>
4. 調査期間：平成16年度：平成16年11月5日～平成17年3月7日  
平成17年度：平成17年4月下旬頃～12月頃（予定）
5. 調査実施機関：(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
6. 調査協力

中土佐町教育委員会  
日本道路公団

### 7. 調査の成果

#### (1) 遺構

- ①現況で確認できる城の遺構  
平場（平坦面）2面、土塁2、  
堀切10本、竪堀18本、畝状竪堀群
- ②発掘調査で確認された遺構  
掘立柱建物跡、柵列、ピット、  
土坑、石積み土塁、通路、横堀1、  
竪堀1、虎口（城への入り口）

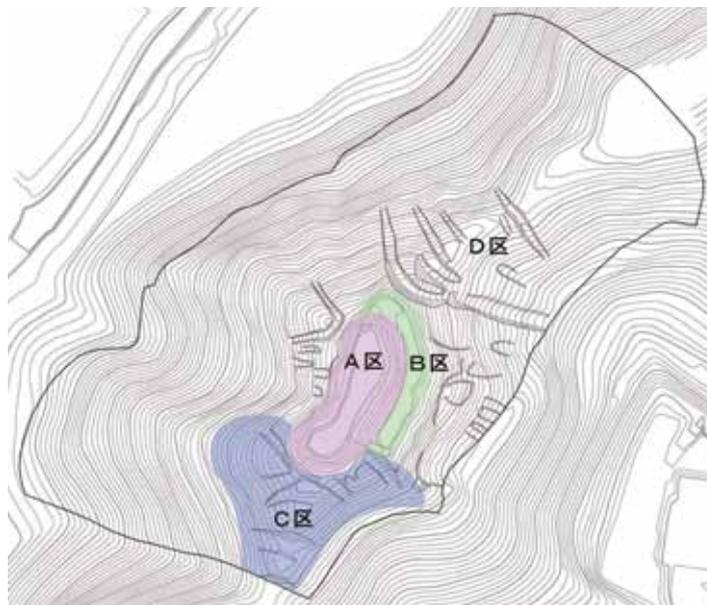


図2 調査区配置図

## (2) 西山城跡の概要

標高70.32mを測る山頂部には、長さ約40m、幅8～10m、面積約360m<sup>2</sup>を測る弧状を呈した「詰」と呼ばれる平地があります。詰の東側6m前後下には、詰に沿って「く」の字型をした「腰曲輪」と呼ばれる平坦面があります。この腰曲輪の両端部には「土塁」があり、南端の土塁下には規模の大きい「縦堀」が認められます。また、腰曲輪東下斜面には、縦堀を連続させた「畝状縦堀群」があり、さらにその下、標高45m付近には調査区外にあたりますが4本の畝状空堀群が確認できます。詰から北東方向に続く尾根には、合計6本の「堀切」を連続させており、一部は縦堀と連結するように造られています。また、南東方向に続く尾根には、詰からの比高差5m下に堀切と見られる遺構があり、北、西、南東の3方向に縦堀が連結しています。ここから尾根は南東に向けて地形が下さがり、標高54mにかけて3本の堀切が連続します。城の西側(松の川側)は、急峻であり、自然の地形を利用し、縦堀として使われたと考えられる遺構が一部に見られます。

このように、現況でも城の遺構を明確に確認する事が可能であり、当時の城の姿をそのまま残しています。城の縄張りから見て、堀切や縦堀といった遮断施設を多用しており、極めて防御性の高い城造りといえ、性格的には軍事的な緊張(戦)の中で構築された「砦」的な可能性が高いと思われます。

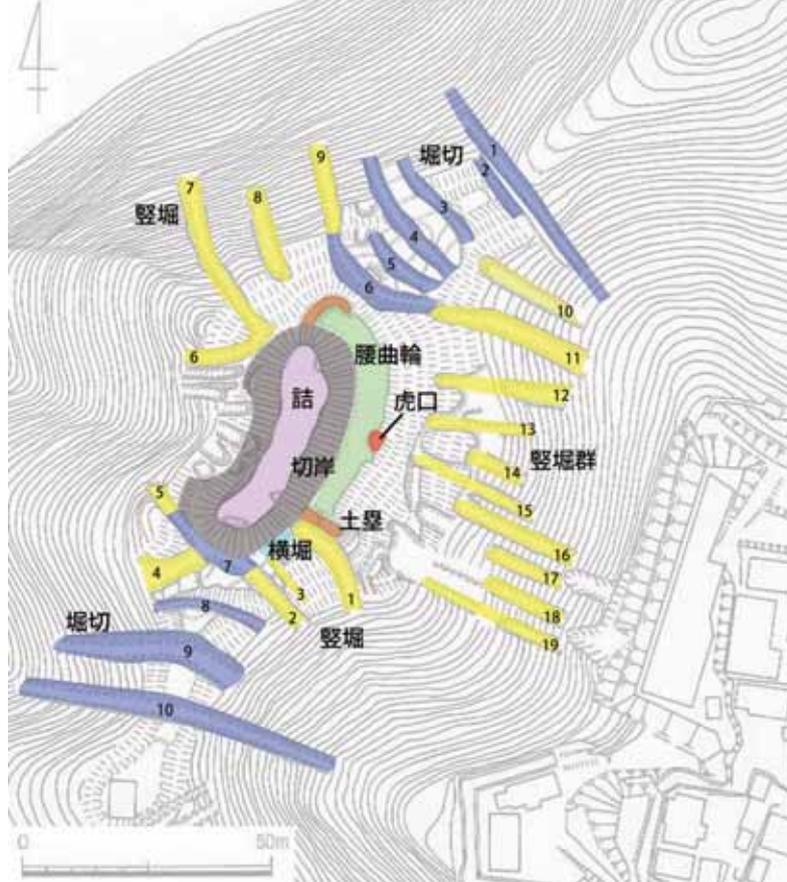


図3 西山城跡概要図

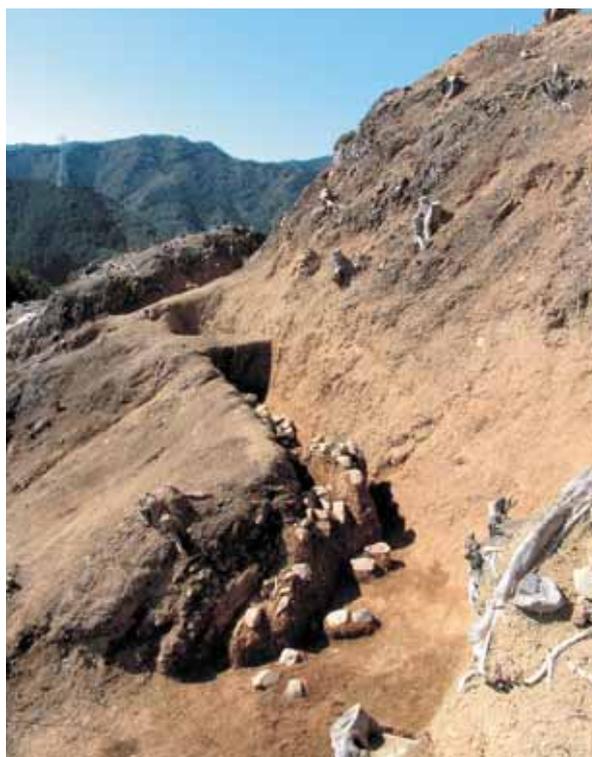


図5 横堀と切岸(土塁より)



図4 腰曲輪南土塁(北より)



図6 堀切7、床面検出状況(西より)

(3) 遺物

出土点数約800点

①15世紀前半～中頃

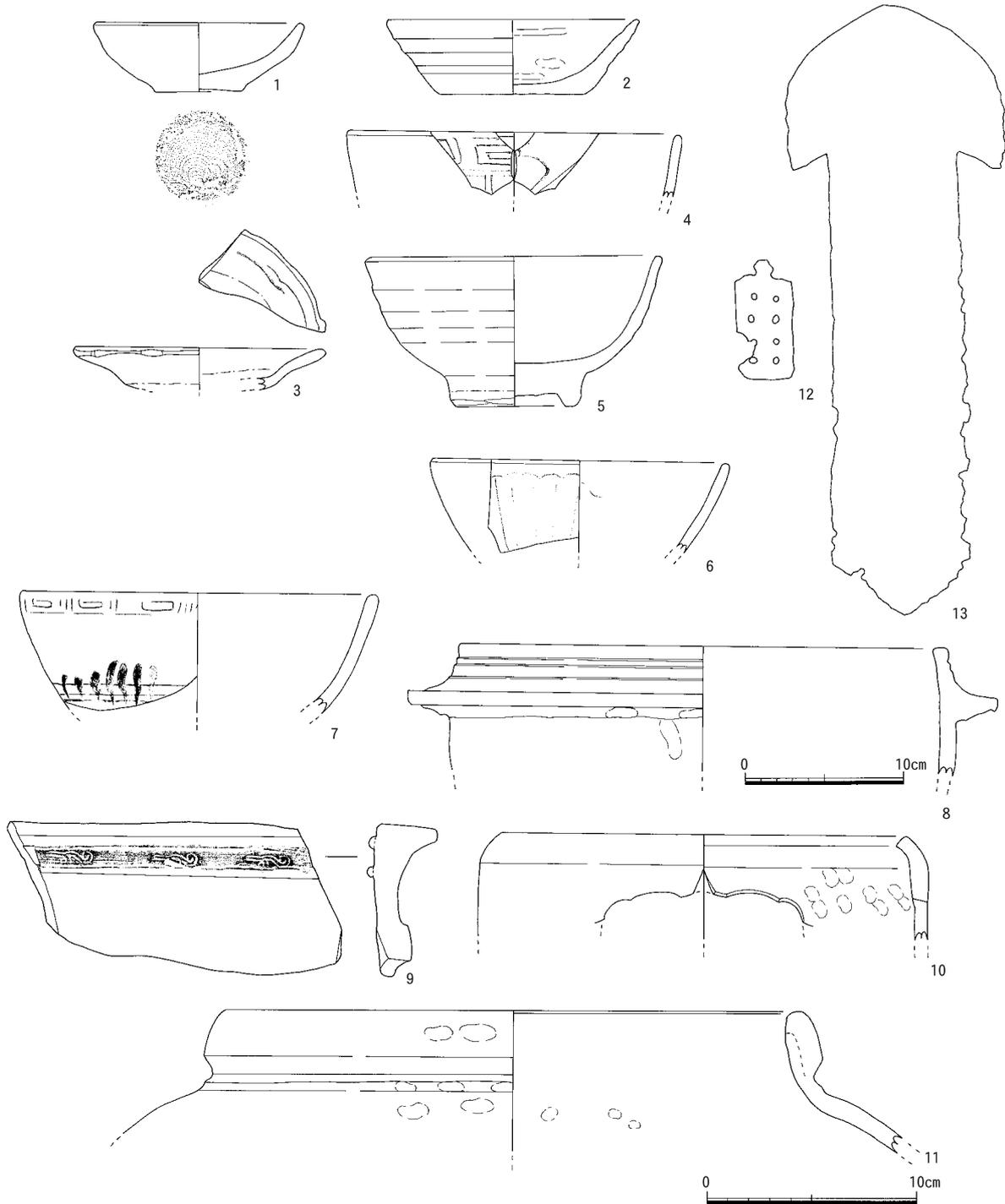
土師質土器(杯・皿・羽釜) 瓦質土器(火鉢・風炉) 備前焼(壺・甕・播鉢)  
貿易陶磁器(青磁碗・皿、白磁皿)

②15世紀後半～16世紀初め頃

土師質土器(杯・皿・鍋) 備前焼(甕・播鉢) 貿易陶磁器(青磁碗・皿、青花碗・皿)

③その他

石臼、砥石、土錘、鉄釘、鉄滓、鉄製品、羽口、古銭、銅製品(鎧の小札等)



出土遺物実測図 土師器皿杯(1・2) 青磁皿(3) 青磁碗(4~7) 瓦質羽釜(8) 瓦質火鉢(9) 瓦質風炉(10) 備前甕(11) 小札(12) 銅製品(13) ※(13)は1/2縮小。

図7 西山城跡出土遺物実測図

#### (4) まとめ

発掘調査では、詰で柵列、ピット、礎石等が見つかり、腰曲輪では石積み土塁、掘立柱建物跡、虎口等が発見されました。建物の規模等は現在調査中ですが、周辺の出土遺物から15世紀代の遺構であると考えられます。また、腰曲輪から詰に上る通路状の遺構も検出されていますが、当該期の山城の調査では発見例は少なく城の構造を知る上で貴重です。さらに、この通路が検出された腰曲輪では、入り口にあたる「虎口」と呼ばれる遺構も見つかっており、下方斜面部からのアプローチがどのようになるのか来年度の発掘調査に期待されます。出土遺物は詰の北部及び北西斜面、及び腰曲輪北部に集中して発見されました。出土遺物の帰属時期は大きく15世紀前半代と15世紀後半から16世紀前半にかけての2時期に分かれます。内容は、青磁の水差しなどの奢侈品を含め貿易陶磁器の破片が比較的多く出土しています。出土状況では、詰の南部で銅製品と土師質土器の皿が共伴して出土した状況が認められ、地鎮、もしくは城の廃城の際に行った儀礼、祭祀行為の跡ではないかと思われます。このように、出土状況及び遺物の内容から城の主郭部分の空間の使われ方や機能していた時期を知る上で貴重な成果を得ています。

来年度の発掘調査は尾根筋、斜面部を中心に行う予定ですが、現況で確認されている竪堀や堀切の構築時期が出土遺物等により明確になれば、城全体の遺構の変遷が見えてくるものと思われます。今回の西山城跡の発掘調査は、今までの県内で実施された山城の発掘調査の中では初めての大規模な調査であり、最終調査面積は8,000㎡前後になるものと予測され、西山城跡の城域の約90%を発掘調査することになります。西山城跡の城主は、「北村氏」という伝承がありますが、当時の史実を示す史料は少なく、はっきりとした事は分かっておりません。今年度の調査成果をもとに来年度の発掘調査が実施される事により、西山城跡の活動していた時代、また、中土佐町の中心的な城である「久礼城」との関わり、ひいては戦国時代に果たしたこの地域の歴史の解明が進むものと考えられます。



図8 青磁



図9 銅製品と土師質土器皿出土状況(詰)



図10 詰(A区)調査風景



図11 西山城跡航空写真(東より)



西山城跡ホームページ

[http://www1.quolia.com/katsuono\\_castle/](http://www1.quolia.com/katsuono_castle/)